

題目（明朝 15pt ボールド）2 行にわたる場合の 2 行目 は 1 行目よりも短く （副題は括弧内に（明朝 12pt ボールド））

著者 1 氏名 A, 著者 2 氏名 B, 著者 3 氏名 C（明朝 12pt）
著者 4 氏名 A, 著者 5 氏名 B（姓と名の間には半角スペースを入れる）

1 書式←章（ゴシック 10.5pt ボールド 番号は全角）

このテンプレート自体が予稿集原稿の書式に準じていますので、「上書きモード」に設定し、利用してください。図、参考文献全てを含めて 2 ページ以内で作成してください。本文部分の左右と上のマージン（余白）は 20mm, 下は 25mm でお願いします。題目部分や脚注部分は、テキストボックスを貼り付けているわけではありませんので、まさにこのファイルをテンプレートとしてください。章と節の前には空白行を入れてください。

1.1 文字のフォントとサイズ←節（ゴシック 10.5pt）

本文の基本文字サイズは 10.5pt, フォントは明朝（英数字は Century）とします。句読点「。」、「,」や括弧などの記号は、いずれも全角とします。ただし Word によって、禁則処理など自動的に表示される場合、特に気にする必要はありません。

1.1.1 著者名と所属←項（ゴシック 10.5pt）

著者名は明朝 12pt, 所属名（学部名あるいは部署名）は明朝 9pt で記述してください。著者氏名の右肩に、所属を区別するための記号を上付きで付けてください。一人目からアルファベット大文字（半角）A, B, C...を使用してください。

著者が 1 名の場合は、テンプレートから著者 2 氏名～著者 5 氏名 B を削除して、「著者 1 A」のみを残してください。著者名が 2 人以上の場合は、著者名の間は「,」で区切ります。

所属は原稿 1 ページ左段脚注に記してください。まず、原稿末尾の次の行に（空行を入れず）半角ダッ

C: ○○大学○○学部（行間隔 最低値 0pt）
シュの連続の 1 行を入れてください。

その次の行に、所属を記載した行を入れる。所属ごとに A: , B: のようなアルファベット順の記号で記し、同一所属は同じ記号を用います。単著の場合も A: の記号を忘れずに入れてください。

大学の場合は大学名学部名まで明記してください（その他の場合もこれに準ずる）。大学名と学部名の間はあけないでください。

2 「上書きモード」の設定方法

キーボードの Insert ボタンを 1 回押します。

2.1 本文の貼り付け方

- ①別に作成した原稿の本文を「コピー」します。
- ②「編集」から「形式を選択して貼り付け」を選択、「貼り付ける形式」は「テキスト」を選択します。

A: ○○大学○学部（明朝 9pt, A: の部分は Century9pt）
B: ○○（株）教育開発部（学部名/部署名まで記載）

3 改ページに関する注意

ここに章・節などの見出しがきた場合は、空白行を入れるなどして最上段に送ります。

4 図表

予稿集の印刷は原則として白黒になりますので、事前に必ず白黒印刷をして、読み取りに支障がないことを確認してください。図表には、必ず図題、表題をつけ、図、表、図題、表題はすべて中央揃いとしてください。貼り付ける図表が、1段に収まらなければ、左右2段にまたがってもよい。また、原稿中に図が1つしかなくても、「図1」としてください。

4.1 図

図題はゴシック体で、以下のように、図の下につけてください。

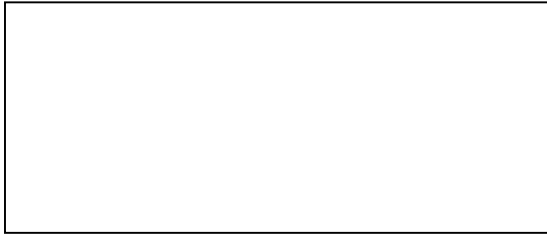


図1 ○○○○

4.2 表

表題はゴシック体で、以下のように、表の上につけてください。

表1 △△△△△△

本文や他の図表の間には1行の空行をいれてください。

5 全般的な注意事項

本文の記述に際しては、原則として体言止めスタイルは取らないようにしてください。文章として読み上げたときに意味が通じるように書くことを基本とします。ただし、どうしても体言止めで項目を列挙したい

場合には、小見出しを活用してください。もしくは、図あるいは表として構成し、本文の外に出すようにするか、次のような箇条書きにします。

- ①こんなこと
- ②あんなこと
- ③・・・・

引用資料

本文の後に1行あけて、引用資料のリストを書いてください。引用資料が書誌である場合には、「著者」、「年」、「タイトル」、「書誌情報」を記載してください。オンライン出典から引用した場合には、書誌情報の後にURLを記載してください。なお、DOIを記載する場合には、URLを記載しないでください。非刊行物などの場合には、読者がその資料にアプローチできるようにするための情報を記載してください。リストは、筆頭著者の姓あるいは資料作成者の名称のアルファベット順に並べてください。

その他、リストの記載の仕方や並べ方について迷う場合には、APA方式に従ってください。

例)

- Arenadale, D. (2005). Terms of Endearment: Words that Define and Guide Developmental Education. *Journal of College Reading and Learning*, 35(2), 6–82.
<http://files.eric.ed.gov/fulltext/EJ689656.pdf>
- 谷川裕稔. (2009). 学士力育成に向けてのリメディアル教育のあり方 (特集号の企画を振り返って). *リメディアル教育研究*, 4(2), 1–4.
- 谷川裕稔. (2012a). わが国の教育・支援プログラムおよびサービス. 谷川裕稔他 (編). 学士力を支える学習支援の方法論, pp.40–52. ナカニシヤ出版.
- 谷川裕稔. (2012b). 「リメディアル教育」と「初年次教育」の概念使用上の混乱に関する一考察. *日本リメディアル教育学会第8回全国大会発表予稿集*, 236–237.
- 谷川裕稔, 長尾佳代子. (2013a). 再考: 「リメディアル教育」概念. *リメディアル教育研究*, 8(1), 43–48.
- 中央教育審議会. (2008). 学士課程教育の構築に向けて (答申). 文部科学省.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chuko0/toushin/1217067.htm